

## エゾカワラナデシコ ナデシコ科

*Dianthus superbus* L. var. *superbus*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三徳山 2006.7.16/撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：三徳山では観光客の手に取れる場所に生育し、個体数わずか。若桜町では分布場所がごく限定され、個体数はやはり少数。

■**特徴**：高さ30–50 cmの多年生草本。日当たりのよい岩場に生育する。茎は直立して上部で枝を分ける。葉は広い線形で、茎とともに鮮やかな粉白色を帯びる。三徳山では永くミトクナデシコと呼ばれてきた。6–8月、茎頂に淡紅色、直径4 cmほどの花を数個咲かせる。カワラナデシコの苞葉3–4対に対して、本種は2対であることで区別される。最近若桜町の岩壁でも確認された。

■**分布** 県内：若桜町、三朝町。県外：北海道、本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：山野草愛好家に珍重される。地域住民の保護意識啓発と行政の保護、増殖対策が望まれる。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：48,54.

執筆：森本満喜夫

## オオヤマフスマ ナデシコ科

*Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2010.5.21/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：大山の山地草原に加えて、県内西部の道端や原野にも数カ所生育地があるが、分布は離散的。県内東部では自生を確認できない。

■**特徴**：山地の草原や道端に生育する繊細な多年生草本。茎は有毛で細く上部で枝を分ける、高さ10–20 cm。葉は対生し長さ1–2 cmの長楕円形、3脈が目立ち有毛。花期は長く、6–8月にかけて直径約1 cmの白い5弁花を咲かせる。おしべは10本。

■**分布** 県内：大山町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草丈が低いため、生育環境の変化によって他の植物に被圧されると生育できなくなるおそれがある。草刈りなどの人為的な環境管理の継続が必要。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## ワチガイソウ ナデシコ科

*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2007.5.9/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生地はブナ帯の溪流沿い岩壁や岩上で、生育環境が不安定。小形のため環境変化に弱く、個体数も少ない。

■**特徴**：ブナ帯域の溪流沿いの岩壁、岩上や岩礫堆積地に生育する小形の多年生草本。塊根は紡錘形、茎は細く1–2列の毛がある。茎は枝分かれせず高さ8–18 cm、葉は対生、基部はくさび形となる。花期は4–6月で、上部の葉腋から長柄を出し、先端に白色の花を一つつける。花弁は5枚で、先はくぼまない。葯は紫紅色で目立つ。和名は江戸時代、名前がわからないこの草に「輪ちがい印」を付け目印としたことに由来。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州。中国。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の渓谷沿い周辺の自然林の保護

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

## タンナトリカブト キンポウゲ科

*Aconitum japonicum* Thunb. subsp. *napiforme* (H.Lév. et Vaniot) Kadota

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2010.10.11 / 撮影：木村順二

■**選定理由**：県内の自生地は西部に限定され、東部では見つからない。自生地も互いに離れており、自生地の環境悪化のため個体数も減少しつつある。

■**特徴**：山地の草地や疎林に生育する多年生草本。花は青紫色で花期は9–10月。茎は高さ1 m内外で直立–斜上し、分岐しない。葉は3全裂し、裂片の基部は細い葉柄状になる。サンヨウブシ (*A.sanyoense*) は林縁に生育し、茎が曲がり、葉が7中裂することで区別できる。

■**分布** 県内：倉吉市、大山町、南部町、日南町。県外：本州（中国地方）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草刈り等の草地管理による生育地の環境維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：88.

執筆：木村順二（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

## ミチノクフクジュソウ キンポウゲ科

*Adonis multiflora* Nishikawa et Koji Ito

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



江府町 2010.3.19 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：1990年以前には群生地もあったが、2010年現在、採取と生育環境の悪化により数本が生育するのみ。このままの状態が続けば数年で絶滅する。

■**特徴**：日当たりの良い広葉樹林下や原野に生育する多年生草本。県内では、休耕田の畦や原野に自生している。雪融け後の3月上–下旬、花卉12–15枚の光沢のある黄色の花を咲かせる。萼片の長さは花卉の1/2から2/3でほとんどが5枚。開花時の高さは5–7 cmだが、花が終われば茎が急激に伸び、夏期には地上部は消える。茎の断面は中空、葉は互生。

■**分布** 県内：江府町、伯耆町。県外：本州（中部以北）、九州。

■**保護上の留意点**：現在は、自生地の草刈りによりかろうじて維持されている。草地、畦畔を管理し、草原の維持が必要。早急に実効性のある採取防止策を取ることが必要。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

## ユキワリイチゲ キンポウゲ科

*Anemone keiskeana* T.Itô ex Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2005.3.31 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内東部の限られた場所に少数が生育する。里山の維持管理がなくなり生育適地減少。園芸的な人気から採取圧高く、減少顕著。

■**特徴**：低山域の林内や林縁に群生する多年生草本。早春、他の植物に先駆けて咲く春植物。初夏に地上部は消滅し、秋に越冬葉を開葉する。根茎は多肉質で紫色を帯びる。根出葉は長い葉柄があり褐緑色–濃緑色で三角形、3出全裂でミツバに似る。小葉は菱形で上半部に粗鋸歯、白斑紋がある。下面は暗紅紫色。茎葉は3輪生。花期は3月、径約3 cmの花を1個、花茎に頂生する。帯紫白色。気温が上昇する午後が開花。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市・河原町、八頭町、智頭町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。低山域の自然林維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：松本 綾

## キクザキイチゲ キンポウゲ科

*Anemone pseudoaltaica* H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市佐治町 2006.4.13/撮影：松本 綾

■**選定理由**：山間地の草地管理放棄と、採取圧により個体数減少。千代川中上流部では、果樹園放棄による生育環境変化で個体数が激減した。

■**特徴**：明るい落葉樹林の林床や林縁に生育する小形の多年生草本。高冷地や多雪地中心に、カタクリと混生も多い。小コロニーをつくり晩春までに地上部が消える春植物。高さ5–15 cm。根出葉はキクの葉より深く切れ込み、2回3出複葉。莖葉は3輪生3出複葉。4月頃、径2.5–4 cmの花を1個頂生。花弁はなく、淡紫色から白色の萼が花弁状となる。

■**分布** 県内：岩美町、若桜町、智頭町、鳥取市・用瀬町・佐治町、大山町、南部町、江府町。県外：北海道、本州（中国地方以北）。

■**保護上の留意点**：採取防止の啓発と、自生地を中心とした、山間地落葉広葉樹林の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：40.

執筆：松本 綾

## アズマイチゲ キンポウゲ科

*Anemone raddeana* Regel

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市佐治町 2006.4.13/撮影：松本 綾

■**選定理由**：県内では千代川支流中流域に特異的に多産し、果樹園や畑周辺に生育する。果樹園放棄など里山の維持管理不足により減少。

■**特徴**：山地の樹林下などに生育する多年生草本。晩春から休眠する春植物。一般に石灰岩地を好む。自生地域では、この花が咲くと、もう雪は降らないと言われるほど身近な植物。他の植物が越冬しにくい北向き急斜面で、定期的に刈り払われ、早春の日照が確保される果樹園が生育適地。3–4月、径3–4 cmの花を1個頂生する。花弁はなく、白色の萼が花弁状となる。花茎は開葉前に伸長。キクザキイチゲとは葉形が異なる。

■**分布** 県内：鳥取市河原町・佐治町、三朝町、関金町、日野町。県外：北海道、本州、四国、九州。サハリン、朝鮮、沿海州。

■**保護上の留意点**：アズマイチゲは滑りやすいとして地元農家には歓迎されない。地域住民の理解を得ながらの自生地保全管理が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：40.

執筆：松本 綾

## ヤマオダマキ キンポウゲ科

*Aquilegia buergeriana* Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2010.6.14/撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：自生する岩礫地の崩壊により生育適地が減少し、個体数が減りつつある。目立つ花で人目に付きやすく、採取されることがある。

■**特徴**：山地の草原に生育する多年生草本。県内では、大山でのみ確認されている。高さは20–50 cmになる。葉は2回3出複葉で、小葉は扇形、2–3全裂または深裂し再浅裂する。裂片は長さ約2 cm。花期は6–8月、萼は帯褐紫色、花弁は帯黄色で距は長く、内曲しない。距が内曲し、花が淡青紫色のミヤマオダマキも大山でみられるが、弥山山頂付近のものは、以前に人為的に播種された別産地の種子に由来する。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。大山山地草原の保全。

■**文献**：75.

執筆：鷲見寛幸

## リュウキンカ キンポウゲ科

*Caltha palustris* L. var. *nipponica* H.Hara

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



三朝町 2010.4.25/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：多雪地の常時湿潤な急斜面に生育するため、雪崩れや崩落により生育が不安定。自生地の孤立化も著しい。採取圧も存在する。

■**特徴**：標高の高い多雪湿潤な斜面や、渓谷、水湿地に群生する多年生草本。太く短い根茎に白く太い根をもつ。高さ15–50 cm。花期は4–5月、花弁はなく、萼片が濃黄色花弁状で径2–3 cm。根生葉は長柄、厚くやや光沢がある。花茎は花後も直立。エンコウソウは花茎が倒れて伸び、節から出芽して増えるものをいう。三朝町ではオオシラヒゲソウ等が混生し貴重だが、林道開設で一部が消滅。扇ノ山では2009年見つからず要再調査。

■**分布** 県内：鳥取市国府町、三朝町。県外：本州、九州。朝鮮。

■**保護上の留意点**：自生地の自然植生保護、採取防止。

■**特記事項**：兵庫県レッドデータブックでは但馬でエンコウソウを記載、国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：4.

執筆：井上喜美子

## トリガタハンショウヅル キンポウゲ科

*Clematis tosaensis* Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



南部町 2004.4.16/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内のアカマツ林下に生育。自生地は少ないが、個体数は多め。里山の維持管理が難しくなり、生育環境が減少している。

■**特徴**：丘陵地の明るい林床や林縁に生育する落葉つるの性低木。3出複葉の葉が対生し、地面をはったり、低木にからんだりする。花期は4–5月、葉腋から短めの柄を出し、先端に釣り鐘状の花を1つ下向きにつける。花弁のようにみえる4枚の萼片は淡黄白色。和名は発見地の高知県鳥形山にちなむ。花柄が長く、紫褐色の萼片をもつハンショウヅルは県内各地にふつう。

■**分布** 県内：鳥取市鹿野町、南部町。県外：本州（福島県以南）、四国。

■**保護上の留意点**：里山の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：87.

執筆：田中昭彦

## バイカオウレン キンポウゲ科

*Coptis quinquefolia* Miq.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2010.3.22/撮影：松本 綾

■**選定理由**：自生はもともと多くはないが、里山の環境変化や採取圧により減少傾向である。

■**特徴**：陽が差し込む明るめの疎林内や山地の陰湿な林床、ときに岩角地にも生育する小形の常緑多年生草本。県内では主にスギ植林内に生育する。地下茎は黄色く、横走する。葉は根出し、掌状複葉。小葉は5枚、やや硬質で光沢がある。花期は3–4月、白色の萼片が花弁状に5枚つき、長い花茎の先端に1個頂生する。袋果は矢車状輪生（オウレン属共通）。和名は花をウメに見立てたもの。別名ゴカヨウオウレン。

■**分布** 県内：鳥取市用瀬町・佐治町。県外：本州（中部以西）、四国。

■**保護上の留意点**：自生地の森林管理、明るい林床の維持。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：13.

執筆：松本 綾

**サンインシロカネソウ** キンポウゲ科

*Dichocarpum nipponicum* (Franch.) W.T.Wang et P.K.Hsiao var. *sarmentosum* (Ohwi) Tamura et K.Kosuge

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



智頭町 2005.4.15 / 撮影：永松 大

- 選定理由**：山陰から北陸にかけての日本海側に分布する，山陰を特徴づける種。県内の山地溪谷沿いにふつうだが，人工改変に注意が必要。
- 特徴**：山地溪谷沿いの湿潤な林床や水分の多い崖地，急傾斜地に生育する小形の多年生草本。高さ10–20 cm。葉は複葉で，側小葉は3裂，いずれにも鈍い鋸歯がある。花期は4–5月。径1 cmほど。花卉は棒状で。萼片5枚が花弁状になり，淡黄色で基部に赤褐色の斑がある。開いた2個の特徴的な袋果をつける。花後，走出枝を出す。基本種のアズマシロカネソウは北陸より北の日本海側に分布し，より大型で走出枝が欠如。
- 分布** 県内：山地溪谷に点在。県外：福井県から鳥根県の日本海側。
- 保護上の留意点**：山地溪谷沿いの自然植生と立地の保全。採取防止。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：—

執筆：永松 大

**ミスミソウ** キンポウゲ科

*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2002.3.17 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内に点在する早春の可憐な花で，目立つため採取されやすい。鳥取市内のある自生地では盗掘により絶滅した。
- 特徴**：落葉樹林の林床や林縁に生育する小型の常緑多年生草本。葉は根生し，三角形で浅く3裂する様子から和名（三角草）が付いた。葉は光沢がありやや肉厚で，冬も枯れない。花期は3–4月，径1–1.5 cm。萼片が花弁状になり6–9枚，白色のものが多い。萼片に見える3枚の苞葉がある。県内では海岸部から標高1000 m附近まで点在。別名ユキワリソウとも呼ばれる。
- 分布** 県内：岩美町，鳥取市・福部町・国府町・河原町・鹿野町，倉吉市，三朝町，琴浦町，大山町，日南町。県外：本州（中部以西），九州北部。
- 保護上の留意点**：採取防止，特に海岸部遊歩道，神社境内，林道脇など。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
- 文献**：—

執筆：井上喜美子

**オキナグサ** キンポウゲ科

*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



日南町 2008.4.25 / 撮影：永松 大

- 選定理由**：県内数カ所の日当たりのよい草地や畦畔などに自生。草地管理を中心とした保全活動のおかげで個体群維持は小康状態。
- 特徴**：日当たりのよい草地や畦畔などに自生する多年生草本。太い根茎を持ち，全体に白毛が密生する。根出葉は長柄があり，2回羽状複葉。小葉は細かく裂ける。花茎は10–20 cm，花後に伸長する。花期は4–5月。下向きに開き，6枚の暗赤褐色の萼片が花弁状になる。白毛のある果実が球状に集まる。採草地や牧草地に多かったと考えられ，現状維持には保全活動の継続が重要。販売されている中国産栽培品の野外植栽に注意。
- 分布** 県内：湯梨浜町，三朝町，大山町，日野町，日南町。県外：本州，四国，九州（点在）。朝鮮，中国。
- 保護上の留意点**：草地の維持管理，保全活動の継続と拡大。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種
- 文献**：56。

執筆：永松 大

**バイカモ** キンポウゲ科*Ranunculus nipponicus* Nakai var. *submersus* H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2009.7.18/撮影：永松 大

■**選定理由**：バイカモ自体が希少だが、地域変種であるヒルゼンバイカモとの区別が必要。ここでは、両種を含む「バイカモ」として指定。

■**特徴**：ため池や水路に繁茂する常緑の沈水植物。冷水を好み、県内では河川上流部や湧水地、水路に生育。茎の節から不定根を出して底に定着する。葉は互生し3裂、さらに糸状に細裂し、水流になびく。花期は6-10月と長い。葉腋から花茎を水面付近に伸ばし径1.5 cmほどの白色5弁の花をひらく。バイカモは葉身3-7 cmだが、ヒルゼンバイカモは葉柄・葉身がより長い。中国山地の河川に分布。バイカモは移入の可能性あり。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、鳥取市気高町・青谷町、大山町、米子市淀江町。県外：北海道、本州。

■**保護上の留意点**：水路の保護。

■**特記事項**：移入由来のバイカモと在来ヒルゼンバイカモの調査が必要。

■**文献**：15,102.

執筆：神谷 要・永松 大

**オトコゼリ** キンポウゲ科*Ranunculus tachiroei* Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日野町 2010.8.11/撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内で確認されている自生地は1カ所のみ、生育本数もきわめて少なく絶滅のおそれ強い。過去の記録地には現在生育なし。

■**特徴**：山地の日当たりのよい湿地、用水路、溝、ため池畔、休耕田などに生育するやや大形の多年生草本。茎は直立して多数分枝し、高さ80 cmを超える。根出葉は2回3出複葉。茎の先端部にキツネノボタンに似た黄色い花を7-8月ごろ咲かせる。集合果は球形。キツネノボタンに比べて葉は細く分裂、先が尖る。現在確認している自生地は、ため池畔の時々水没する場所である。

■**分布** 県内：日野町。県外：本州（福島県以南）。

■**保護上の留意点**：自生地はため池満水時には水没する。水位管理により長期間の冠水を避ける。周辺にヨシが広がっており、適切な管理も望まれる。

■**文献**：—

執筆：矢田貝繁明

**ミヤマカラマツ** キンポウゲ科*Thalictrum tuberiferum* Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2005.7.21/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では高山の一部に生育が限られ、個体数も少ない。

■**特徴**：山地-高山の林下に生育する多年生草本。茎は細く、高さ30-50 cm、上部でまばらに分枝する。根生葉は1枚で長い柄があり、2-3回3出葉。茎葉は少数、上部は単葉となる。葉身はやや長めで薄い。裏面は粉白色。花期は6-8月、萼片は花期には脱落。雄しべが花弁状となる。茎頂に集散状円錐花序。県内では氷ノ山、大山の標高1000 m以上の渓谷沿い谷壁斜面に生育する。

■**分布** 県内：氷ノ山、烏ヶ山、大山。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生保護。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

**モミジカラマツ** キンボウゲ科

*Trautvetteria caroliniensis* (Walter) Vail var. *japonica* (Siebold et Zucc.) T.Shimizu

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



三朝町 2010.8 / 撮影：森本満喜夫

■**選定理由**：多雪地帯の深山溪谷，湿り気のある斜面にわずかに生育するが，分布南限で個体群の存続に強い懸念がある。

■**特徴**：山地の沢沿いに生育するやや大型の多年生草本。高さ 50 cm 内外，上部には短毛が密生。根出葉を 2-3 枚出し，葉は掌状で 7-9 深裂。茎の先や葉柄から長い花柄を出して 10 個ほどの花をつける。花期は 7-8 月，径 1 cm ほど。花弁はなく，萼片も脱落し白色多数の雄しべが細い花弁状に見える。和名は葉をモミジに見立て，糸状の花をカラマツに見立てたもの。

■**分布** 県内：若桜町，三朝町。県外：北海道，本州（中部以北）。北東アジア。

■**保護上の留意点**：山地溪谷の自然植生保護。

■**文献**：23。

執筆者：伊澤寛治

**ヒロハヘビノボラス** メギ科

*Berberis amurensis* Rupr.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2010.5.15 / 撮影：坪倉 敏

■**選定理由**：県内では局所的に生育するのみで，他個体群から孤立。個体数も少ないため，個体群維持が不安定。

■**特徴**：山地に生育する落葉低木。高さ 1-3 m，幹は多分枝し，縦に稜と溝がある。葉は互生，短枝に叢生し，倒卵形か長楕円形，長さ 3-10 cm，幅 1.5-3 cm。先端は鈍くとがり近縁種より葉が広い。刺毛状の鋸歯がある。花期は 5-6 月，短枝の先にやや垂れぎみの黄色の総状花序を出し，10 数個の花をつける。萼，花弁，雄しべは各 6 個。果実は楕円形で長さ 7-10 mm，赤く熟す。和名は針刺の多い枝を蛇も登らないだろうと例えたもの。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生地一帯の自然植生の保護と，地元住民への啓発。

■**特記事項**：日南町の蛇紋岩地帯が県内唯一の生育地

■**文献**：12。

執筆者：坪倉 敏（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

**サンカヨウ** メギ科

*Diphylleia grayi* F.Schmidt

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2006.6.1 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：シカの食害により，ここ数年県内東部では個体群が大きな被害を受けている。西部ではまだ食害はないが，今後の推移に注意が必要。

■**特徴**：山地の落葉樹林下に生育する多年生草本。高さ 30-60 cm になり，しばしば群生する。茎葉はふつう 2 枚で，下の葉は長い葉柄に盾状について腎円形，20-30 cm と大きく，不ぞろいな鋸歯がある。上の葉は小さくほとんど無柄。花期は 5-7 月，白色で径 2 cm ほどの花を数個つける。液果は藍色で食べられる。氷ノ山ではシカの選択的食害により一部で激減。

■**分布** 県内：扇ノ山，氷ノ山，三国山，大山山系標高 500 m 以上に点在。県外：北海道，本州。

■**保護上の留意点**：山地の自然植生保護，シカの食害対策。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：永松 大

## ジュンサイ スイレン科

*Brasenia schreberi* J.F.Gmel.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



日野町 2008.7.24/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：本来の維持管理が続けられているため池に生育。自生地は少なく、水田耕作が放棄されると、ため池の環境変化で絶滅につながる。

■**特徴**：ため池に生育する暖帯性の多年生浮葉植物。地下茎は水底をはい、節から水中に茎を伸ばす。若芽、葉柄、葉の裏面はねばねばした粘物質におおわれる。浮葉は長柄の先につき、楕円形で径10 cm、裏面帯紫色。花期は6–8月、紅紫色、径1.5 cm内外、水上で開花する。食用にされることもあるが、多量採取は個体群維持に影響。鳥取市内の自生地は、周囲の水田耕作放棄でため池の保全管理がなくなり絶滅した。県内のため池にはヒツジグサもあるが、葉が15 cmと大きく、花は白色、径5 cm内外。

■**分布** 県内：岩美町、倉吉市、南部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：ため池の保全管理、販売目的の採取防止。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## コウホネ スイレン科

*Nuphar japonica* DC.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2008.8.22/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：ため池、水路に点在するが、自生地は以前より減少。特に水路ではコンクリート化により泥地がなくなり絶滅地が多い。

■**特徴**：ため池と用水路に群生する抽水性多年生植物。地下茎は横走し葉を束生する。水上葉は大きく広卵形、基部は矢じり形にへこみ、皮質で光沢がある。水中葉は広線形。花は6–9月、萼片5枚が黄色く花弁状となる。内側の雄しべ状のものが花弁。ため池のコウホネは大群落になることもあるが、水路ではコンクリート化にともない確認できなくなった場所が多い。

■**分布** 県内：鳥取市気高町・福部町、北栄町、南部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水湿地の保護、ため池の保全管理。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

## ヒツジグサ スイレン科

*Nymphaea tetragona* Georgi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岩美町 2010.10.5/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内のため池に点在。水田耕作減少にともないため池が放置されて、自生地が減少している。

■**特徴**：日がよく当たるため池に生育する多年生浮葉植物。地下茎は太く短い塊茎。葉は叢生する。浮葉は楕円形、基部は深く切れ込む。沈水葉は矢じり形になる。花期は6–10月、花は茎頂に1個つき、水面上に咲く。白色、径5–8 cm。花弁は狭卵形で多数。花後、花茎はらせん状に縮み水中で結実。よく似た浮葉を持つマルバオモダカは花茎が直立し、花弁3枚の点で区別するが、県内で混生しているため池はない。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市河原町・佐治町、八頭町、大山町、伯耆町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：周辺の木々の伐採を含めた、ため池の保全管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆：坂田成孝



**ハンゲショウ** ドクダミ科  
*Saururus chinensis* (Lour.) Baill.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2003.7.4 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：水路のコンクリート化等で里山から半湿地が減少し、自生地が失われて、減少している。

■**特徴**：平地から低山地の湿地，自然性の高い水路，山間の水湿地に群生する夏緑性多年生草本。地下茎は太く横走り，茎は高さ50–100 cm。葉は卵形で基部は心形，長さ約10 cmで5–7脈，臭気がある。葉の白色は開花期に特に目立つ。花期は6–8月，穂状花序で白色の花が多数つく。山間水湿地の自生群落は次第に周辺の大形草本が入り込み，ハンゲショウの個体群は縮小傾向である。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市・福部町・気高町，八頭町，大山町，米子市，境港市。県外：本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：湿地，自然性の高い水路，水湿地の保全管理。

■**文献**：—

執筆：坂田成孝

**マルバウマノスズクサ** ウマノスズクサ科  
*Aristolochia contorta* Bunge

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2005.7.7 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での自生地はごく限られてはいるが，初版編集後，個体群の悪化はみられず今回はVUに変更。

■**特徴**：水田や畑，山すそなどに生育するつる性の多年生草本。葉は卵状三角形，葉は粉白色，長さ4–10 cm，先端は円頭から鈍頭。花期は7–8月，葉腋から数個の花が出る。ラッパ状で黄緑色の花。萼片が花弁状になる。果実は卵状球形。県内では田畑周辺の山すそに多く，毎年草刈りがされるような場所に生育するが，比較的かく乱に強く，継続して出現する傾向がある。

■**分布** 県内：鳥取市・国府町，智頭町，大山町。県外：本州（山形県から島根県の日本海側，長野県に多産）。朝鮮，中国。

■**保護上の留意点**：生育地のやぶ状態の維持。

■**文献**：—

執筆：田中昭彦

**フタバアオイ** ウマノスズクサ科  
*Asarum caulescens* Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2010.5.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：全県的に分布はするが自生地は少ない。智頭町駒帰のスギ林内の群落は2010年シカに地上部を徹底的に食べられていた。若桜町落折では崖の崩落により減少。

■**特徴**：山地の林床や谷沿いに生育する小型の夏緑性多年生草本。根茎は円柱形で長く地上をはい，所々に根を出す。葉は1年生で薄く，長い柄があり2葉が対生する。先のとがった心形で縁と両面に毛を散性。花は暗赤褐色，3花被片，雄しべ12，花柱1，柱頭の部分だけ6裂。つぼ形，花期3–5月。葉はウスバサイシンとよく似ており同定に注意。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町，若桜町，智頭町，三朝町，日野町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護，保全。

■**文献**：—

執筆：井上喜美子

## ウスバサイシン ウマノスズクサ科

*Asarum sieboldii* Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2004.4.29/撮影：坂田成孝

■**選定理由**：自生地では小群落をつくるが、県内に生育地は多くない。  
 ■**特徴**：山地のやや湿った林床に生育する夏緑性多年生草本。根茎はフタバアオイより多節で、各節から根を出す。葉は薄い。葉身は心形で先がとがる。花期は3-5月、暗紫色、広鐘形で、裂片は三角状、広卵形で先はとがり、縁が外曲してつまんだようになる。サイシンは「細辛」と書き地下部に辛味があって有名な薬草。扇ノ山ではアツミカンアオイと同じような場所にあり、ギフチョウが産卵していることもある。県内では近緑のフタバアオイよりは多め。

■**分布** 県内：点在。県外：本州、四国、九州（北部）。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護・保全。採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：井上喜美子

## ヒメカンアオイ ウマノスズクサ科

*Asarum takaoi* F.Maek.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



日南町 2010.3.5/撮影：藤原文子

■**選定理由**：自生確認が県内西部に2カ所のみで、個体数も少ない。自生地の1つではチマキザサが繁茂し、ここ10年で個体数が激減した。

■**特徴**：山地の谷治いや社叢のやや暗い林地に生育する小型の常緑多年生草本。葉は通常2枚で長柄がある。葉は長さ約5 cm、卵円形、円頭で基部は深心形、薄い斑紋状模様をもつ。花期は2-3月、積雪の中で開花する。花は広筒型で萼片が花弁状になり、三角形に3裂。日南町の自生地1カ所は2006年に新確認、開花個体は少数。林道治いはササ刈りにより個体数安定、水路治いは減少済み。用水路管理が放棄されるとチマキザサが繁茂し、ヒメカンアオイの個体数減少が懸念される。

■**分布** 県内：日南町（2カ所）。県外：本州（中部以南）、四国。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地谷治いの森林、社叢の林床管理。生育地でのチマキザサ刈り取り、農業用水路としての上流の整備。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

## ヤマシャクヤク ボタン科

*Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：長尾利宏

■**選定理由**：県内東部から西部までの山地部に分布するが、若桜町、智頭町ではここ数年シカの食害により激減。採取圧もあり。

■**特徴**：ブナ林などの明るい落葉広葉樹林の斜面や稜線に生育する落葉性の多年生草本。県内では標高300 m以上の山地に点在。高さ30-50 cm。3-4枚の茎葉をつけ、基部には数枚の鱗片がある。葉は2回羽状複葉で柔らかい。小葉は楕円形から卵形、先端は狭まりとがる。両面ともふつう無毛、裏面は白色を帯びる。5-6月、茎の先端に5-8 cmの花を開く。萼片は3枚、花弁は5枚、開花時はマシュマロ状で愛らしい。秋に「鶏冠状」の赤い結実を見る。最近、大山6-7合目で見られなくなったのは残念である。

■**分布** 県内：点在。県外：本州（関東以西）、四国、九州。朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：採取防止。山地自然林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種

■**文献**：—

執筆者：長尾利宏